

広報

環境カウンセラーちば

第43号
 特定非営利活動法人
 環境カウンセラー
 千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
 環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

EC千葉設立 15周年を迎えて

理事長 國廣 隆紀

1996年(平成8年)9月、「環境カウンセラー登録制度」が創設されてから、16年7カ月が経過し、現在は全国で4300名の環境カウンセラーが活動しています。平成8年度は、全国で665名が登録されましたが、千葉県内在住の有志が、同志に声をかけ、1998年2月8日、会員56名からなる「環境カウンセラー千葉県協議会」(EC千葉)が設立されました。



以来、EC千葉は、ちょうど15周年を迎え、117名の会員のみなさまとともに喜び合いたいと思います。設立当時の会員の約半数が現在も在籍されており、その方々にとっては、多くの労苦も思い出されて、感慨と喜びもひとしおのことと存じます。

設立当初は、活動するための原資も乏しく、ひたすら研修の機会を多くし、折からの地球温暖化対策のために、省エネの啓発として「省エネナビ」の活用促進を市民にはたらきかける活動や事業者に対して環境マネジメントシステムのISO 14001の認証取得を支援する活動に注力をいたしました。

2003年3月には、県内のNPO活動の活発化の機運により、EC千葉もそれまでの任意団体を一旦解散して、NPO法人格の認証を取得しました。これを契機に「地球温暖化防止活動推進員のブラッシュアップのための研修会」のような県の受託事業や県との協働事業では、チームワークよく活動できるようになりました。この頃から環境学習への取り組みも注目度も上がり、組織的な活動を始めました。

また2005年には、エコアクション21(EA21)がそれまでの届出制度から認証登録制度に変更になり、環境マネジメントシステムの支援活動もEA21に軸

足をおくようになりました。その後、水環境でも浄化槽啓発活動などの事業や、生物多様性保全の活動にも着手してきました。このようにEC千葉は確実に歩を進めて、県内でも知名度が上がってくるのが感じられるようになりました。

これはひとえに種々の活動に取り組まれた会員のみなさまの努力によるものと思います。とりわけ、任意団体EC千葉の設立時の初代代表の小角 浩様、そのあとを継がれた2代目代表(会長)の村上 利子様、初代NPO理事長の土田 茂通様、2代目理事長の戸村 泰様のご尽力に感謝いたします。

そのしっかりした基盤を持つようになった2009年に私が理事長を引き継ぎ、EC千葉は、その年に千葉県知事から「文化の日功労者表彰」を、2010年には環境大臣から「地域環境保全功労者表彰」を、翌年2011年には生活協同組合ちばコープから「社会貢献賞・ちばコープ地域かがやき賞」を、日本水環境学会関東支部からは「水環境保全活動奨励賞」をいただきました。

このような榮譽ある表彰で、まさに千葉県内の環境関連の全方位の活動団体として地歩を固めて来つつあると言えます。

昨今の激変するエネルギー事情はもとより、種々の環境問題に今こそ環境カウンセラーが実力を発揮すべきであり、EC千葉を取り巻く人々も期待されていることと思います。

しかし、これらの活動の中核となっている会員の平均年齢が高齢化しつつあることは否めず、さらに実行力を高めるために、次回通常総会では人心の一新を図ればと思います。

私も2期4年、理事長を務めさせていただきましたが、さしたることもできず恐縮に思っており、つぎの方へやり残したことをしっかりとバトンタッチし、これからは若い方々の支援に全力を尽くしたいと思います。

特集：EC千葉設立15周年を迎えて

「共に祝おう この喜びを」

任意団体での初代代表 小角 浩

(平成10年度～平成11年度)



ここにEC千葉設立15周年を共に祝えることをうれしく思います。とくにNPO法人設立後の進展は目覚しく、歴代理事長はじめ会員各位のご尽力の賜物と、その想いを深くしております。

代表退任後、内にあつては県外自然観察会の企画を担当させて頂き、尾瀬に始まり、上高地、十和田・八幡平、柵池・浅間、佐渡、裏磐梯・吾妻、蔵王・出羽三山と楽しく続けて参りましたが、本年をもって渡辺さんにバトンタッチさせて頂くことになりました。

外にあつては、平成16年から昨年まで、ECUで自然環境保全・緑化を担当し、東京商工会議所の環境社会検定（eco検定）の合格者に対するスキルアップ講座の一環として「エコリーダー公式テキスト・（緑化）エコリーダーになろう」のプロジェクトリーダーを務め、各地ECの協力を得て出版、その後の養成講座開催に携わりました。この事業にはEC千葉の倉田さんの全面的なご協力を頂きました。

一方、地元袖ヶ浦市にあつては、EC千葉の推薦として平成13年から環境審議会委員を務め、平成21年からは会長としてその任に当たっています。この職にあつたことが機縁で、平成17年から、20ヘクタールに及ぶ市有地を「椎の森自然環境保全林」として、ボランティアによる整備を行うことになり、以来、EC千葉の山影さんの協力のもと、代表幹事を務めております。

この間の経緯は、平成22年、EC仲間のSさんと共著の「こんなに面白い環境カウンセラーの仕事」に詳述しておりますので、関心のおありの方はご一読ください。

これからも今暫らく、老骨をいたわりつつ、地域の環境保全に仲間と共に、楽しく過ごしていく所存です。

「女性の活動に期待」

任意団体での（第2代）会長 村上 利子

(平成12年度～平成14年度)



EC千葉が設立15周年を迎えられ、まことにおめでとうございます。

私は、当年88歳、都内におりますが、想えば千葉県で30年もの間、みなさまにお世話になりました。

昭和47年に「くらしの会」を、翌年には「千葉県消費者団体連絡協議会」を立ち上げて消費者活動の運営を続けることができました。

環境カウンセラー制度が創設されるに伴い、私も登録を受け、多くのみなさまと平成10年にEC千葉を立ち上げ、その初代副代表を務めさせていただきました。そしてさらに平成12年の総会の役員改選では、会の代表を会長に改めることとなり、多くの男性会員のおられる中で、私をその会長に選んでくださいました。それまで、沼田知事と「省エネ省資源千葉県協議会」を立ち上げたこともあつて、折からの温暖化対策のため、千葉市に「省エネナビ」を購入してもらい、市民に提供して省エネに取り組んでいただく事業をEC千葉で取り組んだことも思い出されます。

会長を3年間務めさせていただき、その間、みなさまの努力でEC千葉の礎ができ、さらにNPO法人へと発展をされたと思います。

その後、EC千葉は、環境学習の事業も熱心に取り組まれています。子女の教育には女性の力が必要であり、もっともっと女性会員の増加は望ましく、女性の活動に期待します。

東日本大震災がありましたが、環境と災害は切り離しては考えられず、国民一人ひとりの役割分担と実行力が成否を分かつこととなります。環境カウンセラーのみなさまのたゆまぬ努力と熱意によって日本が世界の見本となりますよう祈っています。

特集：EC千葉設立 15周年を迎えて

「新しい時代を迎えて適応した運営を」

NPOでの初代理事長 土田 茂通
(平成15年度～平成18年度)



設立15周年を迎えて真におめでとうございます。

平成15年にNPO法人になり、私は、初代の理事長を担当させて頂き、NPO法人の道を歩き始めました。

私から現在まで理事長を引き継いできた戸村泰さん、國廣隆紀さんは、NPO法人設立時には、すでにEC千葉で中心的活動を行っていました。この10年間を第1期とすれば、これから第2期が始まり、団塊の世代を生き抜いてきたOB軍団が運営する新しいEC千葉の活動が展開されることを大いに期待しています。

NPOを設立した平成15年は、当初財政的経営基盤が貧弱でしたが、千葉県の協働事業「地球温暖化防止活動推進員養成ブラッシュアップ研修会」を受託し、事業に参加した方々には多額のご寄付を頂き、財政の危機を脱出しました。

その後、EA21事業も軌道に乗り始め、3代の理事長が担当した10年間は安定した経営基盤が続いていることは極めて同慶の至りです。

環境カウンセラーに登録され、現役を退きOB生活を始めて、先輩たちの社会における行動を見た時、老人クラブの代表は超高齢かつ長年月の就任が常態化していることに気が付き、EC千葉をこのような老人クラブ化しては活動が停滞すると考え、初代理事長に就任した総会において出席者に、「①理事長は70歳を超えると就任しないこと、②理事長は4年間で限度とすること」の提案を行い、全員に賛同をいただきました。

①は破られましたが、EC千葉を活性化し発展させるために、60歳代への理事長交代や組織の体質改善を積極的に行っていくことを切に希望します。

「これからの環境カウンセラーの役割」

NPOでの第2代理事長 戸村 泰
(平成19年度～平成20年度)



平成10年2月8日に、われわれの先輩方が熱い使命感を持ってEC千葉を設立され、今年で満15年を迎えることができました。共に活動した先輩方や皆様と共に心からお祝いを申し上げます。

私は、平成19年、20年の2年間、EC千葉の理事長を拝命し、たまたま、設立10周年記念イベントを皆様と共に実施しました楽しい思い出があります。

この15年間、環境カウンセラーの役割である「環境保全活動に関心を持つ人々の多様な相談・ニーズに対応(解説・相談・指導)することができること」をめざして、EC千葉の3つの精神、①各人が常に研さんに励む、②会員同士の共助により、より優れた成果(アウトプット)を発揮する、③元気で仲良く楽しい活動を心がける、を先輩から若い人へと絶えることなく引き継がれてきました。しかし、最近、われわれの活動に影響を及ぼしそうな大きな社会の変化があります。

第1は、東日本大震災と津波、そして原発事故です。その後のNPOやボランティアの役割への社会や行政の期待の変化が読み取れます。すなわち単独のNPOの活動も然ることながら、複数の(多くの)NPOを協働させつつ、行政とは違った発想で行政に代わって事業推進してほしいという変化です。第2にいじめや暴力問題を抱える学校の姿勢の改革に参加することです。第3はエネルギー政策と再生可能エネ・省エネの技術開発との関連及び強烈な気候変動と大気中の温室効果ガス増加との関連です。このような社会の大きな変化に対応して、EC千葉をさらに発展させるために、会の運営や活動を若い、新しい方々の手に移していく会の勇気と若い、新しい方々の奮起とを心から期待します。

開催報告

第14回秋季研修会

昨年11月10日、京葉銀行文化プラザで、「再生可能エネルギー及び省エネルギーの普及活動の具現化に向けて」をテーマに第14回秋季研修会を開催し、26名が参加した。

午前は、「革新的エネルギー・環境戦略と今後の地球温暖化対策について」と題して、環境省・地球環境局総務課低炭素社会推進室 室長補佐 大川 正人様に講演をしていただき、午後は、「再生可能エネルギー、省エネルギーの普及活動の具現化に向けて」をテーマにグループ討議を行い、結果をまとめた。

【環境省地球環境局 大川 正人様の講演要旨】

演題：

『革新的エネルギー・環境戦略と今後の地球温暖化対策』

長期的なビジョンで地球温暖化を防ぎ、いかに低炭素社会を構築していくか、わが国の現状、とくに資源の枯渇問題とクリーンエネルギーの確保をめざすためのエネルギー政策はどうあるべきか、われわれ環境カウンセラーとしての行動基盤となる、示唆に富んだ有意義な講演をいただいた。

1. わが国の現状と温室効果ガス排出量について

京都議定書でわが国は、1990年（基準年）の排出量12億6100万トン、第一約束期間2008～2012年で11億8600万トン（基準年比6%削減）にする約束をしている。（6%の内訳は、実排出量0.6%、森林吸収源3.8%、京都メカニズムクレジット分1.6%）

その見通しについては、リーマンショックの影響もあって、2009年までは達成見込みであったが、東日本大震災による原発事故で原発が停止し、2010年以降、実排出量のCO₂が急増しているものの第一約束期間終了時点ではなんとか、基準年比6%削減を達成できそうである。

2. エネルギー・環境会議での検討と革新的エネルギー・環境戦略について

1) エネルギー供給システムを是正し、安全・安定供給・効率・環境面から革新的エネルギー・環境戦略策定に向けた中間的な整理として原発への依存度低減の3つの選択肢（原発を0%、15%、20～25%にするシナリオ）が検討されている。

2) 革新的エネルギーと環境戦略については、平成24年9月に3本柱として、「原発に依存しない社会の実現」、「グリーンエネルギー革命」、「エネルギー安定供給」を打ち出し、平成24年末にはエネル

ギー基本計画の改訂版を提示することになっている。（※平成24年12月の内閣改造もあり、平成25年2月現在、基本計画は見直しも含めて継続検討中である）

3. 再生可能エネルギーの飛躍的拡大策について

1) 安全で環境にやさしいエネルギーの確保は必須であり、国として省エネルギーの推進と再生可能エネルギーの飛躍的拡大をめざして施策を推進し、ロードマップを策定中である。

その推進役として再生可能エネルギー特別措置法のもとに再生エネルギー固定価格買取制度を平成24年7月1日から導入し、地域経済の活性化にも寄与させ、また10月から環境税の改定に踏み切り、化石燃料供給者に対する税制を強化した。

4. 低炭素な都市・地域づくり

1) 地域人口が減少し人口密度が低下傾向にある中、身近な生活利便施設が徐々に撤退していくが、歩いて暮せる生活圈と元気な中心市街地が公共交通で結ばれることが望まれる。

低炭素都市・地域の将来像のイメージとして地域の自然資本が活かされたものへの政策推進が必要である。

5. 温暖化防止国民運動の展開

1) 各主体の責務を理解しながらも、官民一体で温暖化防止に取組み、低炭素社会に転換していくため、温暖化防止国民運動を展開することが肝要である。

2) 温暖化防止のための「6つのチャレンジ」、「家庭でできる節電、7つのポイント」などの率先推進が必要である。



環境省地球環境局 大川 正人様の講演

(事業部長 茂利 晃)
(地球温暖化対策センター長 辻川 毅)

開催報告

自然観察会 蔵王・出羽三山の自然と史跡めぐり

2012年7月18日～20日の2泊3日で山形県を中心に環境学習センターの主催で自然観察会を開催した。

千葉から貸切バスに乗って恒例の小角顧問のご案内でスタートした。

主な観察地とトピックスを記す。

蔵王：宮城と山形の県境蔵王連峰、宮城県の滝見台で2つの滝を少し行って、こまくさ平でコマクサの群落を観察後、火山の噴火でできた直径330mのエメラルドグリーン湖（愛称：お釜）を視察した。お釜は天候次第で見えたり見えなかったりするが一瞬、霧が晴れて観察できたのは幸運だった。



蔵王 お釜

その後、山形県側にある蔵王温泉郷を通して出羽三山へ移動した。

宿泊：羽黒山近くの休暇村羽黒でごつつお（方言でご馳走）コース（新鮮な魚介類と山形牛）で宴会、二次会は幹事部屋で全員懇親会。会話が弾んだ。

出羽三山：山形県東部に存在する月山（がっさん）、羽黒山（はぐろさん）、湯殿山（ゆどのさん）を出羽三山と呼んでいる。

月山（1,984m）：四季を彩る行の山。8合目までバスで行き、弥陀ヶ原を散策した。ニッコウキスゲ、キンコウカ、ウラジロヨウラク、トキシソウ、ヨツバシオガマなどの高山植物を確認することができた。

残雪の端にミズバショウ、ショウジョウバカマ。

羽黒山（414m）：歴史の薫る精霊の山。山頂の出羽三山神社へバスで行く。お参りした後、国宝五重の塔（素木造り、柿葺、三間五層の均整の取れた優美な姿）を見学した。

湯殿山（1,500m）：神秘に息づく浄めの山。古来、出羽三山の奥の宮とされ、修験道の霊地で「語るなかれ」

「聞くなかれ」と戒められた清浄神秘の世界。

ふもとまでバスで行き、参拝バスで頂上近くまで登る。参拝は裸足で石道を歩き、帰りに足湯でくつろいでから聖地を後にした。撮影禁止の厳かな参拝であった。

致道博物館：鶴岡市の多層民家、御隠殿などの貴重な歴史的建築物や民族資料を保存。

山居倉庫：酒田市の庄内米穀取引所の付属施設として建てられた土蔵倉庫。12棟の内9棟が現役、2棟はショップやミュージアム、1棟が庄内米歴史資料館。

宿泊：ヒルズサンピア山形（窓から山形市が望める絶好の宿泊施設）宴会後、幹事部屋で懇親会。

山寺（立石寺）：山形市郊外にある松尾芭蕉ゆかりのお寺で芭蕉・曾良像、山門、仁王門、展望台・五大堂、奥の院など。「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」。1015段もの階段がある。

上杉家ゆかりの地：米沢市は城下町で上杉家にまつわる施設が集まっている。上杉神社、上杉城址苑、上杉謙信像、上杉鷹山像などが設置されている。上杉家御廟は上杉家の墓所で初代謙信公から12代斉定公まで全員が祭られている。

喜多方蔵の街：喜多方にはいろいろな蔵が集まっている街がある。喜多方蔵の里には県指定重要文化財の肝煎屋敷、郷頭屋敷のほか穀物蔵、味噌蔵、酒造蔵、座敷蔵などを保存。喜多方市は千葉の香取市と姉妹都市である。

喜多方を最後に帰途についた。

車中、和気あいあいの中で終始した。中でも何がおかしいのか笑いころげんばかりの松戸市のお笑い3人娘が華を添えた。

小角様、幹事の皆様お世話になりました。



休暇村羽黒

（顧問 二宮恵）

開催報告

第15回企業環境セミナー

2012年10月19日に千葉商工会議所第二ホールで、第15回企業環境セミナーを開催した。主催は、千葉商工会議所と当協議会との共催である。

参加者は、一般受講者としてISO14001認証取得企業の従業員や環境マネジメントシステムへ関心をお持ちの方々49人、来賓、講師及び主催団体の関係者が20人、合計で69人であった。

テーマは、「環境マネジメントシステムのステップアップ活用」と題し、第1部基調講演、第2部事例紹介及び第3部講演の3部構成のセミナーとした。

最初に来賓として千葉県環境生活部次長の北田博雄様からごあいさつをいただいた。15回目を迎えた企業環境セミナーに対する評価や基調講演の「環境管理会計：マテリアルフローコスト会計」の有効な活用についての期待を表明された。

第1部では、当協議会EMS支援センター副センター長の吉野定治が「企業的意思決定のための環境管理会計の展開」＜マテリアルフローコスト会計の導入＞について解説した。

第2部では、(1) ㈱リコー（オフィス向け画像機器などの製造業）の三好晃二様が「リコーのISO14001取り組みと活動事例」を、(2) ㈱日立産機システム（産業用電気品製造業）の首藤昇様が「日立産機システム習志野事業所の省エネ活動事例」を紹介された。いずれも内容の濃い事例であった。

第3部では、環境マネジメントシステム審査員補／当協議会アドバイザーの西田啓作が「これからの内部環境監査」＜本音で語る内部監査の問題点＞について講演した。

アンケート結果などをもとに今後もセミナー内容の改善に努めたい。



(EMS支援センター長 種本 利治)

開催報告

エコアクション21普及セミナー及び
エコアクション21システム構築実務研修会

1. エコアクション21普及セミナー

2012年7月27日に千葉商工会議所第二ホールで、エコアクション21普及セミナー「環境経営で中小事業者は元気を出そう！」を開催した。主催者は、千葉商工会議所、エコアクション21地域事務局千葉県環境財団及び当協議会の共催である。

参加者は、一般受講者が25人で、主催団体などの関係者が18人の合計43人であった。

セミナーの内容は、第1部講演と第2部個別相談で構成した。第1部では、当協議会理事長の國廣隆紀が「事業経営に役立つエコアクション21の取り組み」と題してエコアクション21取り組みの意義を講演した。

ついで、事例紹介として、(1)千葉県解体工事業協同組合事務局長の田丸義章様及び㈱匠瑤解体興業の総務部長の勝股英夫様のお二人が「エコアクション21に取り組んでの成果」を、(2)学校法人有馬学園たかつ幼稚園のEA21事務局長で当協議会顧問の有馬富穂が「たかつ幼稚園のエコアクション21の取り組み」を講演された。さらに、千葉県環境財団エコアクション21地域事務局員で当協議会事務局長の服部達雄から「エコアクション21認証・登録の手続きとそのポイント」の講演があった。

第2部では、2事業者の方から個別相談があった。それぞれ当協議会所属のメンバーが対応させていただいた。

2. エコアクション21システム構築実務研修会

本研修会は、上記のエコアクション21普及セミナー受講者で、さらに具体的な取り組み方法を知りたい方を対象に行っており、昨年に引き続いて今回が2回目である。2012年9月25日、ちば市民活力創造プラザで開催した。主催は、エコアクション21地域事務局千葉県環境財団と当協議会の共催である。

受講者は7団体11人であったが、認証登録がまだの事業者は3社で5人であった。

登録済団体の従業員教育の機会としても活用されているようである。

研修内容は、PDCAにおける文書・記録作成などの実務を取り扱っており、具体的には、計画の策定、計画の実施、取組状況の確認と評価、全体の評価と見直し及び環境活動レポートの作成の各段階における実務を解説している。

講師は、当協議会理事の青木誠が務めた。認証未登録の3事業者のフォローは、当協議会の会員が担当している。

(EMS支援センター長 種本 利治)

開催報告

**エコアクション21地域普及セミナー
(流山市、市原市、八千代市・習志野市)**

エコアクション21の普及に関して、当協議会のEMS支援センターのメンバーは、従来から千葉県下の各市の担当課や商工会議所・商工会を分担訪問して、普及セミナーを連携して開催する機会を模索してきた。

このセミナーを通して、エコアクション21中央事務局の自治体イニシアティブ・プログラムや関係企業グリーン化プログラムにつなぐことを狙った活動である。

メンバーの努力が実って、2012年度は3件の地域普及セミナーを実現することができた。

以下、2012年度の実績をまとめる。

1. エコアクション21流山市普及セミナー

- (1)開催日：2012年9月20日
- (2)開催場所：流山商工会議所
- (3)主催者：流山商工会議所、エコアクション21地域事務局千葉県環境財団及び当協議会の共催
- (4)受講者：6人（4社から4人及び個人として2人）
- (5)内容：①講演：当協議会EMS支援センターの幹事清水一都「事業経営に役立つエコアクション21の取組み」、②事例発表2件：東海相互サービス㈱の代表取締役専務川本大岳氏及び㈱初石板金の社長付熊本匡史氏、「エコアクション21に取り組んでの成果」、③講演：当協議会のアドバイザー西田啓作「エコアクション21の登録手続きと今後の進め方」

2. エコアクション21市原市普及セミナー

- (1)開催日：2012年10月3日
- (2)開催場所：市原市民会館
- (3)主催者：市原市、市原商工会議所
- (4)受講者：5人（4社から4人及び個人1人）
- (5)内容：①講演：当協議会の理事長國廣隆紀「エコアクション21の概要と認証・登録について」、②市原市の担当者「市原市ISO及び環境マネジメントシステム認証取得事業補助金制度について」

3. エコアクション21八千代市・習志野市普及セミナー

- (1)開催日：2012年11月16日
- (2)開催場所：八千代台東南公共センター
- (3)主催者：八千代商工会議所、習志野商工会議所、エコアクション21地域事務局千葉県環境財団及び当協議会
- (4)受講者：7団体8人

(5)内容：①講演：当協議会の理事宮田勉「事業経営に役立つエコアクション21の取組み」、②事例発表2件：齊藤会計事務所の森小百合氏及び㈱シェフオーレの工務室長高橋俊雄氏「エコアクション21に取り組んで」、③講演：当協議会の顧問有馬富穂「エコアクション21八千代塾（集合形式で4回講座）について」
(EMS支援センター長 種本 利治)

開催報告

**内部監査員養成講座
(ISO9001、ISO14001)**

ISO9001内部監査員養成講座は2007年度から毎年2回、ISO14001内部監査員養成講座は2005年度から毎年2回開催している。

主催者は、千葉商工会議所と当協議会であり、開催場所は千葉商工会議所の第二ホールになっている。

この講座は、ISO取組の意義と効果、ISO規格の解説、内部監査の進め方などの解説を行った後、内部監査ワークショップを実施している。実践的な講座になっており、受講者から好評を得ている。

受講対象者は、内部監査員候補者ばかりでなく、力量向上を目指す内部監査担当者、管理責任者、事務局の方にもお奨めである。講座終了後の理解度試験に合格した方には修了証を発行している。

以下、2012年度の実績の概要をまとめる。

1. ISO9001内部監査員養成講座

2012年6月14・15日に通算で第12回目の講座を、そして9月13・14日に第13回目を開催した。受講者はそれぞれ16人、18人であった。講師は当協議会のアドバイザー野口久が務めた。

2. ISO14001内部監査員養成講座

2012年7月12・13日に第16回講座を、そして11月15・16日に第17回を開催した。受講者はそれぞれ23人、18人であった。講師は第16回を当協議会のアドバイザー西田啓作が務め、第17回を同じくアドバイザー野口久が担当した。

3. ISO14001内部監査員養成出前講座

さらに、2012年度は県下のS社からISO14001内部監査員養成講座の出前講座を要請され、5月22・23日に実施した。講師は当協議会のアドバイザー野口久が担当した。

(EMS支援センター長 種本 利治)

開催報告
施設見学会
ガラスリソーシング株式会社

2012年8月28日、銚子市春日町に本社のあるガラスリソーシング株式会社を会員15名で見学させていただきました。

ガラスリソーシング社は、本社工場のほか、銚子市長山町に第2工場、成田市新泉に成田工場があります。

今回の見学では、本社工場のガラス造粒砂生産ラインと香取郡多古町南玉造で取り組まれている“陽光の里”を見学させていただき、成田工場会議室で、この取り組みについて意見交換を行ないました。

各市町村で回収されるガラスビンのうち、着色ガラスビンは通常、埋立て処分されていますが、銚子市や周辺自治体から収集される着色ガラスビンや陶磁器は、本社工場で、5mm以下の“鋭利な角のない透水性の良い造粒砂”に加工されます。この生産ラインは、1日当たり400トンの生産能力があります。

この造粒砂は、軟弱地盤の改良材や道路の路盤材のほか、最近、各地で設置が進むメガソーラー基地の表土としても活用されています。

本社工場見学の後、多古町南玉造の“陽光の里”に移動しました。ここは、砂を採取した後の粘土質の残土で荒れた1万6千坪の土地を買い取って、その中に池を造り、その周囲は“造粒砂”で土質改良し、2700本余りの各種樹木を植樹しています。2名の庭師の方が専属で造園整備に励んでおられます。

“陽光の里”の見学の後、成田工場に移動し、会議室で、この取り組みについての意見交換会を行ないました。“生物多様性に配慮した取り組み”の視点などでいくつか質問や提案をさせていただきましたが、社員30名の会社の取り組みとしては、地球環境を意識した大規模な取り組みで感心させられました。整備後が楽しみです。

(廃棄物対策センター長 宮田 勉)



開催報告
施設見学会
株式会社日立産機システム 習志野事業所

2月22日、日立製作所の創業製品であるモータを主力に生産する(株)日立産機システム習志野事業所における省エネ取り組み事例の見学会に会員21名が参加した。エネルギー管理優良工場として経済産業大臣表彰を受けた工場の省エネへの取り組み内容の紹介と、数々の省エネ事例の見学は大変有意義であった。

省エネへの取り組みは、事業所全体に「工場エネルギー管理システム(FEMS)」を構築しており、照明や空調、生産設備等のエネルギー統合管理をしている。

このFEMSについて、分単位の時間でエネルギーの使用量、設備稼働が見えている状態を実際に見ながら説明を受けた。これは省エネ改善だけでなく経営に有効なシステムとなっているとのことで、さらに省エネモデル工場として公開する中で省エネソリューションビジネスを展開していると話されていた。

また、実際に現場を見学して、省エネを実施している具体的な内容の説明があり、インバータ生産職場での空調は、エアコンの群制御により職場ユニット単位に温湿度を管理されていた。

塗装ブースで排気ファン・ポンプのインバータ化を図っている所では、マットスイッチにより作業者がいるときに自動的に働くような、非常に現実的なシステムが作られているなど、参考になる点が多かった。

屋外には、この会社の製品である太陽光発電用パワーコンディショナを用いた100kW太陽光発電システムが実用試験を兼ねて設置されていた。

最後に、省エネ補助金の活用法についても説明があり、環境カウンセラー活動に参考になった。

現場見学及び説明会の後の意見交換の中で、省エネの成功事例だけでなく苦労話まで聞くことができ、有意義な見学会となった。

(総務部副部長 橋本 正)



活動報告

平成24年度

浄化槽啓発特別プロジェクトの活動

平成24年度も県の水質保全課と浄化槽団体連合会共催の「浄化槽講習会」が県内5か所で開催された。

浄化槽啓発特別プロジェクトは、その講習会にのべ10人（上口、見並、久保田、古畑、稲葉）の講師派遣を行った。

講習会の概要を次表に示す。（いずれも土曜日開催）

開催月日（時間：10時～12時）と場所	受講者数
9月29日 一宮町中央公民館	34名
10月27日 富津市中央公民館	17名
11月17日 南房総市千倉保健センター	15名
12月1日 旭市いいおかユートピアセンター	18名
12月8日 山武市役所	32名

これらには浄化槽メーカーの協力により、実物大のカットモデルを展示し、内部構造（5人槽）が確認でき受講者の理解に大きく貢献した。また、トイレトーパーパーは水に溶けないことを実演して示し、清掃の必要性を呼びかけるなど講習内容を工夫した。

上記の県主催の講習会とは別に、千葉県職業能力開発短期大学主催、(社)環境保全センター後援の「親子・環境体験教室—水の環境を考えてみましょう」が2013年3月2日に短期大学校で開催され、講師2人（上口、久保田）が担当した。小学生向けの講習は初体験で、実習主体の内容など小学生向けにやさしい表現に工夫した。今後、小学生向けの講習会のためにブラッシュアップを行い、講習会のツールを作成したい。

県内には約60万基の浄化槽があり、その管理水準向上が生活排水による公共水域の汚濁防止に大きく寄与する。EC千葉は、今後も地道に浄化槽講習会などの啓発活動に協力していきたい。

（浄化槽啓発特別プロジェクトサプリーダー
見並 勝佳）



協働報告

南房総エコネットのみなさんと

丸山川の水生生物観察会

生物多様性研究会が協働を実施した南房総エコネット(服部 礼二代表)は、「水は命の源」という分かりやすいコンセプトで、平成20年の合併で広域になった南房総市の全域の水環境を守る活動をされています。

協働のきっかけは平成23年度南房総市民環境大学でした。「生物多様性と川の自然調べ」のテーマで講義をした折、市の担当者から受講生の南房総エコネットの代表を紹介されました。南房総エコネットは、すでに川の水質調査をしておられ、講座内容に実践者ならではの質問を受けました。現地での環境学習、水生生物同定、流速の測定法、道具の作り方、環境評価のテクニックも含まれていたため、その後、支援を行い、さらに協働へと進展しました。

2012年7月23日に開催の丸山川自然観察会では、南房総エコネットは南房総市チャレンジ事業の主催者となって、下見、事前研修、当日の企画、参加者募集、器具の準備、運営までを担当されました。

生物多様性研究会は、事前研修に参加し、水生生物、指標生物の同定、調査のテクニック、総合的な考察、評価などのコンサルティングを行い、調査結果をまとめ、結果は連名で千葉県に報告しました。

パートナーシップの三段階は、1.支援 2.連携 3.協働であり、協働は目的と手段を共有する対等な関係で、最も高度な取り組み方と言えます。

冬場、野外で市民対象の調査観察会が困難なため、生物多様性地域連携促進法の学習会と海辺の貝の調査の下見をしたいとの依頼が南房総エコネットからありました。県内全域に大雪が降った翌日の1月19日、富浦にて南房総エコネットの役員対象の学習会を行い、その後、西浜で貝拾いをしました。

南房総エコネットには貝の収集、分類を続けてきた方がおられて、生物多様性の視点から注目されました。

（生物多様性研究会会長 鈴木 優子）



出展報告

エコメッセ in ちば 2012

エコメッセも1996年の開催から17年目になる。今年のエコメッセは、「ちば最大の環境活動見本市」をテーマに2012年9月17日の祝日に幕張メッセ国際会議場で開催され、来場者も1万2千人に達し、子どもから大人まで幅広い年代の方々が参加され盛況であった。

当協議会は、地球温暖化対策センター、水環境対策センター、生物多様性研究会の3グループがパネル展示及び実験・標本展示を行った。

水環境対策センターでは、生活排水のBODの汚れについての展示と、身の回りの物資のpHの紹介のパネル展示及び消費者に身近なものとして、クエン酸のpHチェックの実験をクイズラリーと連動して実施し、多くの小学生の人気を集めた。

地球温暖化対策センターでは、CO₂濃度測定器で人間の呼吸がどの程度のCO₂濃度になるかの実験を行い、他のブースにはみられないユニークな実験のため人気があった。

生物多様性研究会では、巨大なコウイカの殻などの海や川の珍しい生き物調べや盤洲干潟の貝の標本などアピール性に優れた展示であった。

また、当協議会以外のブースでもエコメッセ事務局、クイズラリー事務局、ストップ温暖化、太陽光発電、アースコンマツドなどの各出展ブースで当協議会の会員の皆さんが活躍されていた。

(事業部長 茂利 晃)



出展報告

ちば市民活動創造フェア in きぼーる

2012年11月17日、18日の2日間、千葉市の「きぼーる」の1~3階にて今年から新しい名称「ちば市民活力創造フェア in きぼーる 2012」で、NPO法人・ボランティア・市民活動の発表・展示会が開かれました。

当協議会も展示に参加しました。今年は、「当協議会の全体紹介」「環境学習PJセンターの活動」「生物多様性PJセンターの活動」「エコアクション21に関する活動」「浄化槽啓発特別PJの活動」の最新作のポスターを展示しました。さらに新たに作成された「当協議会三つ折りの入会案内葉」及び広報第42号を机に平積みし、その脇には、「ご自由にお取りください」としました。結果は10数枚ほど持ち帰って来ていました。(大成功!)

展示準備・撤収は服部・戸村、ブースの説明は茂利、展示ポスター作製は服部・見並・中庭、入会案内葉作成は服部が担当しました。また当協議会の多くの会員が本フェアを訪れたことでしょう。なお、本フェアには千葉の84団体と延べ1800人の参加がありました。

同時に「シニア世代地域活動支援セミナー」も開催されました。

(副理事長 服部 達雄、副理事長 戸村 泰)

出展報告

第11回白井市環境フォーラム

2月23日に白井市文化会館で開催された第11回白井市環境フォーラムに今年も当協議会はパネル展示した。

このフォーラムは、当協議会の辻川が実行委員長を務め第11回を迎えたが、今回は、「自然エネルギーを考えよう!」をテーマに、千葉大学 倉阪秀史教授をコーディネーターにパネルディスカッション、また市内の小学生、環境活動グループ、事業者の活動事例発表などと、パネル展示が行われた。

当協議会のパネル展示では、協議会活動の説明パネルとともに、会員の活動事例紹介として、生物多様性研究会の活動と和郷園バイオマスプラントの取組説明パネルを展示した。また、紙類を中心に資源ごみの分別方法やリサイクル内容の説明の展示も行った。

白井市は、伊澤市長、米山教育長、小林環境建設部長の幹部が出席され、このフォーラムを大切に継続されていることを感じた。

(廃棄物対策センター長 宮田 勉)

講師派遣

市民環境大学いちほら

市原市では市民の環境力高揚のため、市民大学を実施されている。平成24年度は延べ8回の講座が開催されるが、その第1回目の基調講義を“エネルギーと環境というテーマ”で当協議会の辻川 毅が担当した。

2012年11月3日、市原市民会館大会議室にて、第1回目が開催され、公募市民約60名の方々が参加された。

主催者の市原市からあいさつのあと、約2時間、温暖化に関する環境課題と対応を説明し、各地域での事例を紹介した。

さらに、環境省関東地方環境事務所から提供された「環境白書」、「適応への挑戦」、「ストップ温暖化2012」を配布して説明し、参加者から大変喜ばれた。

その後、約50分間、小川かおる氏他10名のファシリテータによる“学習の振り返り”として、グループ討議と活発な質疑が実施された。

(地球温暖化対策センター長 辻川 毅)

講師派遣

袖ヶ浦市 環境学習講座

袖ヶ浦市では、「地球温暖化」をテーマに市民を対象とする平成24年度環境学習講座が開催された。

第1回 「地球温暖化について」(導入編)

第2回 「現在のエネルギー・環境施策について」

第3回 「東京ガス(株)袖ヶ浦工場の施設見学」

第4回 「身近な生活からの地球温暖化対策」

そこで、2012年12月15日、第2回の講座を当協議会の國廣 隆紀が担当した。

わが国のエネルギーは、石油や天然ガスが主流で、電力は地球温暖化対策のためにも原子力にシフトしようとしていた。しかし東日本大震災による東電福島事故で原発が不安となり、天然ガスによる電力で急場をしのいでいるが、電力料金の高騰や貿易赤字に影響しており、国をあげて節電を含む省エネと再生可能エネルギーに取り組むべきとはたらきかけた。

(理事長 國廣 隆紀)

講師派遣

柏中学校 「環境教育」風プラン講演会

環境学習コーディネーターのELCoの会が、柏市立柏中学校から環境教育講演会の講師派遣の相談を受けたので、その会員の土田 茂通が、当協議会の中庭 武雄を紹介、コーディネートして、講演会が開催された。

テーマ…「身近な植物から環境変化を考える」

講師…中庭 武雄

実施日…平成24年12月4日

対象者…全校生徒及び保護者 約630名

内容…市内に見られる樹木の植生変化は、地球温暖化によることをデータから考察し、現在柏市を北上中の樹木の変化をスライドで紹介した。このような現象は、地球規模で起きており、農作物・動物の生態系・異常気象・海面上昇等にも大きな影響を及ぼしている。地球温暖化の進行を防ぐためにどのような行動が必要か学ぶことの動機付けを行った。

また市内の「こんぶくろ池自然博物館」は、環境条件と植生、埋土種子による植生再生、里山と生物多様性を学べる貴重な場所であることを説明し、私たち人間は、自然環境の中で生かされており、環境保全の大切さを理解してもらった。

(相談役 土田 茂通)

(環境学習センター長 中庭 武雄)

講師派遣

県立泉高校 特別授業(人権教育講話)

県立泉高校から当協議会に、人権週間にちなんで、環境がらみの人権教育講話を全校生徒(520名)にして欲しいとの依頼があり、今の高校生には、環境に対して密接に関係するエネルギーについて関心を持って欲しいとの考えから、2012年12月18日、「私たちのくらしとエネルギー」と題して、國廣 隆紀が講話を行った。

まず、日本国憲法では基本的人権などおよそ15の権利をすべての国民に与えているのに、わずか3つの義務しか求めていないことを説明し、生活を支える衣・食・住は多くの資源とエネルギーを使用し、それらを確保する権利が国民にあると言えるが、義務はないかと問いかけた。

そして、これまでのわが国のエネルギーの需給と動向を概説し、地球温暖化問題とその対策の市民レベルの活動事例を説明した。さらに東電福島原発の事故をきっかけに、原発を安全に扱う技術が不足していることが露呈し、原発依存から脱却すべく省エネ、再生可能エネルギーの開発普及に国民すべてが取り組むことが必要との認識を促した。健康で文化的な生活を営む権利はあるが、未来のためにエネルギーの確保に理解と協力が必要と結んだ。

(理事長 國廣 隆紀)

会告

第11回通常総会及び第22回環境セミナー

NPO 環境カウンセラー千葉県協議会（当協議会）の第11回通常総会を定款第24条第1項により下記のとおり開催します。

また、総会に引き続いて、設立15周年記念行事、特別講演会、懇親会（含む新会員歓迎会）を開催します。

万障お繰り合わせの上ご出席くださるようお願い申し上げます。

記

日時：平成25年5月26日 13時00分～19時00分

場所：千葉市民会館3階特別会議室

千葉市中央区要町1-1 (Tel: 043-224-2431)

1. 第11回通常総会 13時30分～14時30分

(受付13時00分～)

第1号議案 平成24年度事業報告ならびに決算報告

第2号議案 平成24年度監査報告

第3号議案 平成25年度事業計画ならびに予算(案)

第4号議案 役員のご改選

2. 設立15周年記念行事 14時45分～15時45分

(1) 活動総括 「EC千葉15年間の活動」

元理事長 土田 茂通

(2) 15年継続会員表彰

3. 特別講演会(第22回環境セミナー)

16時00分～17時00分

演題「公害・環境の歴史と環境カウンセラー」

講師 NPO 東城南環境カウンセラー協議会

前理事長 小林 料氏

4. 懇親会 17時30分～19時00分

場所：DINING KITCHEN LEZALGO

千葉市中央区新3-1 グラスボイスビル B1F

(Tel: 043-248-0070)

会費：5000円、ただし女性3000円

(なお、懇親会申し込み後の取り消しは5月15日までに連絡願います。それ以降の取り消しは会費全額をお支払いいただきます。)

お願い：総会当日、受付において平成25年度、年会費(3000円)を納入願います。当日欠席の方は郵便振替口座で納入してください。

(郵便振替口座番号はこのページの下部に記載)

総会への正式なご案内は、別途、往復ハガキをお送りしますので、出欠の返信をお願い申し上げます。

総務部からのお知らせ

2012年8月19日～2013年3月3日の間、当協議会(EC千葉)への寄付金として、つぎの方々がくださいました。

青木 誠様	20,000円	阿部 邦夫様	30,000円
有馬 富穂様	50,000円	上口 清彦様	4,000円
國廣 隆紀様	22,000円	久保田 隆様	3,000円
種本 利治様	21,750円	二宮 恵様	50,000円
橋本 正様	40,000円	福井 信行様	25,000円
古畑 義正様	1,000円	見並 勝佳様	3,000円
宮田 勉様	64,500円		

ありがとうございました。

ECU便り

(ECU:NPO 環境カウンセラー全国連合会)

ECU担当 國廣 隆紀

1. 通常総会開催

ECUの平成25年度通常総会の開催日程が6月28日に開催されることに決定しました。

2. 環境カウンセラー展示会の開催

9月17日～28日の間、渋谷の国連大学1階の環境パートナーシッププラザ展示室を借り切って ECU 主催で、環境カウンセラー展示会が開催されます。

多数のご来場をお願いします。

とくに9月21日は交流の日としています。

広報 環境カウンセラーちば 第43号 (発行日 2013年4月20日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：國廣 隆紀 会員：117名)

URL：<http://ecchiba.sakura.ne.jp/>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤 素子・二宮 恵・松本 源寿

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp (記事寄稿先)

再生紙を使っています。